

2022年度 第2回 鋼構造座屈小委員会議事録

1. 日時 2022年10月21日(金)16時30分～18時00分
2. 場所 web会議
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 城戸將江, 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季, 田川浩, 竹内徹, 中澤祥二, 松井良太, 金尾伊織(記録) (敬称略)
4. 配付資料
 - 22-02-01 2022年度第1回鋼構造座屈小委員会議事録案
 - 22-02-02 諸問題2022頭出し
 - 22-02-03 座屈諸問題 4章スライド
 - 22-02-04-01 諸問題2022 - 5.1 5.3 5.6章-20221019
 - 22-02-04-02 諸問題2022 - 5章-5_2-2022-10-20
 - 22-02-05 諸問題2022_6章
 - 22-02-06-01 座屈に関する諸問題の英訳版に関するSSRCからの提案_221019
 - 22-02-06-02 Proposed Contents for English Edition of AIJ Stability Problems of Steel Structures_20220922
 - 22-02-06-03 Letter of Agreement AIJ Stability SSRC rev. TASG
 - 22-02-07 講習会会告 | 鋼構造物の座屈に関する諸問題2022

5. 議事内容

資料02-01

- ・前回の議事録を確認し, 承認された。

資料02-02～02-05, 02-07

- ・資料02-02に基づき, 趣旨説明のスライドについて説明された。
- ・資料02-03に基づき, 4章のスライドについて説明された。
- ・資料02-04に基づき, 5章のスライドについて説明された。凡例の大きさなど検討した方がよいという指摘があった。
- ・資料02-05に基づき, 6章のスライドについて説明された。参考文献は, スライドに含めないことを確認した。
- ・1章, 3章についてスライド作成中であることが説明された。
- ・各章ごとに, 発表内容に関して打ち合わせを確認した。
- ・資料02-07に基づき, 講習会会告について確認した。
講習会は11月30日(水) 13:00～17:40 完全オンラインで開催される。

- ・当日の講師は, 各担当者が発表してはいけないのか?
→ 基本的には各章の主担当に発表していただく。
- ・配布資料用データを11月5日までに提出。
- ・配布資料のページ数制限はあるのか?
→ 高畑様に確認したところ, 1時間当たり12～24枚でお願いしたいということであった(上位委員会で決まっているとのこと)。また, 冊子での配布とし, pdfでの配布は行わない。

【講習会配布資料について】

- ・講習会資料の抜粋版を配布資料とする。
- ・委員会内配布資料締切：11月5日（土）
- ・提出先：PowerPointファイルを下記ストレージまで提出
諸問題講習会配布資料 - ファイル - 委員会用オンラインストレージ (ajj.or.jp)

資料02-06 SSRCとの連携について

- ・資料02-06に基づき、SSRCとの連携について、倉田委員より説明があった。
- ・2013年版と2023年版の目次を英訳してSSRC側に提示し、アンケートが実施され、SSRC側が希望する翻訳候補が示された。（資料02-06-02）。
- ・候補の中から執筆者の賛同が得られる章、英訳が望ましいとAIJが考える箇所を最終候補としてはどうかと提案があった。
→2022年版を基本とし（1～6章を基本的には盛り込む）、2013年版に関してはSSRC側が翻訳を希望する部分・AIJとして判断した部分を盛り込んでいく形にしてはどうかという意見があった。
- ・現在、座屈小委員会の委員ではない2013版の執筆者への確認はどうか？
→内容が具体的に決まり次第、木村主査より別途確認してもらおう。
- ・SSRCとは10月末にスケジュールを再度調整予定。
- ・SSRCとAIJの協定締結の素案を用意した。内容についてSSRC側の承認は得られている。SSRC側はInternational Liason主査のTelmo Andres Sanchesが署名、AIJ側の署名はどうか？
→AIJ理事会承認になる可能性。
- ・著作権はAIJであるが、SSRCがどのような協力をしてくれるのか、契約時に確認した方が良い。
- ・論文の引用につながるようなまとめ方とする。
- ・出版の形態など、学会へ確認する必要がある。

【SSRC連携今後の予定】

- ・次回委員会（12月～1月頃）で、どの章を盛り込むか、内容の方針を議論する。
- ・WG（主査：倉田委員 松井委員、小橋委員など 計5-6名程度）を立ち上げ、作業を進めていく。
- ・具体的な進め方については、次回委員会、WGの作業に応じて相談しながら進める。

6. 次回委員会

2022年12月～1月頃 オンライン